以森伝心

理事長　柏原康夫筆

19

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会情報誌「以森伝心（いしんでんしん）」第 19 号 2013 年 3 月

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

特集

第1回 森林・林業京都会議
モデルフォレスト運動推進大会を開催

森林のなかまたち「**日本ボーイスカウト京都連盟**」

「**京都府立林業大学校 研修科 森林保全研修のご案内**」

知ってあんしん！　フィールド安全講座「**健康な森林づくりのための下刈り、間伐の注意点**」

森林に生かされる人々「**竹林づくり名手　上田一男さん**」

第1回 森林・林業京都会議

モデルフォレスト運動推進大会を開催

日時 3月5日（火）　**場所** ルビノ京都堀川

全体会議

京都府知事
山田啓二氏

冒頭の山田啓二京都府知事による挨拶では、「森林・林業を取り巻く情勢が厳しい今こそ、環境・生活を守る産業としての大きな役割を果たすため、この会議でオール京都の力を集結させて、しっかりとした基盤づくりが進められることを期待している」と述べられました。

京都モデルフォレスト協会理事長
柏原康夫氏

続く、柏原康夫京都モデルフォレスト協会理事長の挨拶では、「京都の森がさらに良くなっていくよう、横の連携をさらに強化して課題を共有していきたい」と、今後の展望を述べられました。

その後、「京都モデルフォレスト運動推進表彰」が行われ、府内3ヶ所で水源林の保全活動に取り組んでいるサントリーホールディングス株式会社と、長岡京市の西山で関係者の協働による森林整備を実践している西山森林整備推進協議会が知事賞を受賞されました。

京都モデルフォレスト運動推進表彰で知事賞を受け取る、サントリーホールディングス（株）（左）、西山森林整備推進協議会（下）

モデルフォレスト運動推進大会

表彰・修了証授与

午後からは、3つの分野別会議が開催されました。モデルフォレスト運動推進大会においては、モデルフォレスト運動の発展に先導的な役割として多大な貢献をされた8つの活動（13団体）へ、柏原理事長から表彰が行われました。

京都府立林業大学校研修科
「森林保全研修」の修了証授与

また、ボランティアリーダーを養成する京都府立林業大学校研修科「森林保全研修」の修了証授与が行われました。

京都モデルフォレスト協会理事長表彰

- 大江町「毛原の森」森林保全活動
（エスペック株式会社、パナソニックフォト・ライティング株式会社、毛原区自治会）
- 「きょうとさわやか自然の森」保全活動
（コカ・コーラウエスト株式会社）
- 「サントリー水源の森」づくり活動
（サントリーホールディングス株式会社）
- 竹の環プロジェクト
（京都大学、住友生命保険相互会社）
- 天王山周辺森林整備推進協議会活動
（天王山周辺森林整備推進協議会）
- 西山森林整備推進協議会活動
（西山森林整備推進協議会）
- 「ニッセイ未来を育む森づくり」活動
（公益財団法人ニッセイ緑の財団、京丹波町和田区山林管理会）
- 「ムラタの森」森林保全活動（株式会社村田製作所、神前財産区管理会）

京都モデルフォレスト協会理事長表彰を受ける、天王山周辺森林整備推進協議会

京都府や当協会、府森林組合連合会、府木材組合連合会、府林業振興会など13団体の主催により、「第1回森林・林業京都会議」が開催されました。この会議は、森林・林業、住宅建築、モデルフォレスト運動に参画する企業・団体が一堂に会した初の取り組みで、関係者約400名が集いました。

午前の全体会議では、主催者の挨拶に続き、感謝状贈呈と表彰状授与が行われました。また、午後からは「森林・林業活性化大会」「モデルフォレスト運動推進大会」「木材利用拡大大会」の3つの分野別会議が開催され、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

基調講演

基調講演では、京都府立林業大学校校長の只木良也氏に「モデルフォレスト運動への期待」として、企業の社会貢献としての森林管理について、ご講演いただきました。

京都府立林業大学校校長
只木良也氏

（ご講演の要約）

森林は人間に、物質資源、環境資源、文化資源を与え、これらのおかげで私たちは豊かな生活を実現できている。例えば、森林の環境保全機能というと、気象緩和や水保全など50近くの項目を挙げることができる。森林でなくともその機能を果たすものが作りだされているのは確かだが、森林そのものに代わるものはない。また、森林で感じる心地良さのような数値では示せない価値も評価するべきである。

森林の恵みを維持するために、地域ぐるみで森林の持続や自然との共生に取り組むモデルフォレスト運動は重要な役割を担っている。資金、労力、フィールド提供など参加の仕方は様々。CSR（企業の社会的責任）として、利益の一部を社会や自然に還元する企業への期待は大きい。

企業が主体的に地域を取り込み、地域住民が参加できるすそ野の広い運動にしていくことが必要だ。

パネルディスカッション

府内の各地域で、特色ある取組みをしている5団体の担当者によるパネルディスカッションが行われました。

各団体からは、活動の経過や活動する上で見えてきた課題、またその対処方法、参加者を募る上での工夫や広報の仕方、地域交流の取組みなどについて、報告や意見交換が行われました。

コーディネーターを務めていただいた京都府立大学大学院の田中和博教授は、モデルフォレスト運動がセカンドステージへ進もうとする今、改めて活動の軸となるビジョンをしっかり確認しておくことが大切であると、締めくくられました。

京都府立大学大学院
田中和博教授

三洋化成工業株式会社
山田明子氏

西山森林整備推進協議会
北川あかり氏

株式会社村田製作所
細見桂子氏

グンゼ株式会社
伊達寛氏

宮津ふるさとの森を育てる協議会
藤田憲一氏

「モントリオール国際会議」で山田知事が京都モデルフォレスト運動を世界に発信！

平成24年6月12日に開催された米州国際経済フォーラム「モントリオール会議」において、山田啓二京都府知事は、京都の文化と森林の深い関わりを紹介するとともに、「モデルフォレスト運動をさらに発展させ、世界の森林環境の向上に向けて一緒に歩んでいきましょう」と呼びかけました。

森林のなかまたち

前号のガールスカウトに引き続き、今号ではボーイスカウトをご紹介します。ガールスカウトと同じく、ボーイスカウトもまた「緑の少年団」活動で活躍しています。お話をお聞きするために、事務局長の鈴山さんを訪ねました。

日本ボーイスカウト京都連盟

世界の 160 の国と地域で 2,800 万人の青少年が活動しているボーイスカウト。日本ボーイスカウト京都連盟では京都府下で活動する 64 団への支援を行っている。

事務局　〒601-8047　京都市南区新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ3F
TEL 075-662-8801

「生きる力」と「豊かな心」を持ち備えた青少年を育成する

ボーイスカウト運動は 1907 年、イギリスのロバート・ベーデン・パウエルが少年たちの自立心や協調性、リーダーシップを身につけさせようと行ったキャンプに始まりました。翌年日本にも伝わり、1922 年に「少年団日本連盟」が創立されました。これが日本におけるボーイスカウト運動の始まりになります。

スカウトと呼ばれる会員は就学 1 年前の児童から 18 歳以上の青少年まで、年齢層に応じビーバースカウト、カブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウトの 5 つの部門に分かれて活動し、最終的には社会で指導者として活躍することが期待されています。平成 7 年以降は女子の参加も認められるようになりました。活動内容はキャンプなどの野外活動の他に、世界各国との交流・支援活動や社会奉仕活動をしています。「緑の少年団」活動もその一つです。

チームで働く力、規律性が養われるキャンプの集合整列中の風景

上／親子で環境意識を育む「環境共育」
下／班長を中心に流しそうめんの準備中

活動は異年齢の少年たちにより構成される少人数の班で行います。コミュニケーション能力も培われますし、上の子が下の子を指導しサポートすることも自然に覚え、「豊かな心」が育ちます。また、活動の企画は青少年たち自身が行います。もちろん彼らだけでは難しいので二十歳以上の指導者がサポートします。親御さんに参加していただくこともあります。親が子どもと一緒に過ごすということは、重要なことだと思っています。親にとっては我が子の違った一面に気付く機会となりますし、子どもにとっては色々な職業に就いている大人と接することができ、将来について考えるのに貴重なヒントを得る機会となります。

少年期、青年期の問題が多発している今、地域社会の教育力が見直されるべきときです。このような状況の中、ボーイスカウトは青少年の「人間力」「生きる力」の育成に貢献し、社会の期待に応えていきたいと考えています。

「日本ボーイスカウト京都連盟」
事務局長 鈴山勝彦（すずやまかつひこ）

進歩制度（バッジシステム）

ボーイスカウトの活動における特徴の一つ、「進歩制度」。これは一人ひとりの個性や特技を伸ばしながら、社会人として必要な資質をひとつずつ身につけていくものです。進歩制度には、少年が必ず身につけるとよい共通の修得科目（健康管理や食物への感謝の精神など）と、各人の得意な技能や趣味を伸ばす選択科目（水泳や外国語、観察、記録など）があります。修得できたかどうかは本人を含め周りの人たちが評価し、認められればバッジがもらえるようになっています。バッジがたくさん集まっていくことで、子どもたちは自己効力感を得ていきます。

選択科目のバッジ

京都府立林業大学校 研修科 森林保全研修のご案内

植生等を調査し、森の健康状態を定量的に明らかにする

府立林業大学校では、2年制の「森林・林業科」のほか、短期コースの「研修科」も併設、森林・林業に係わる幅広い人材の育成に取り組んでいます。

研修科には、森や木に関わる幅広い分野を学ぶ「森と木の文化コース」、実践的な林業の技術や知識を学ぶ「林業トレーニングコース」、林業経営を学ぶ「経営高度化コース」、府民ぐるみの森林保全活動や地域の鳥獣害対策のリーダーを育成する「森林保全・野生鳥獣害対策コース」があります。

今回は「森林保全・野生鳥獣害対策コース」の中の森林保全研修についてご紹介します。

森林保全研修は、京都モデルフォレスト運動に参加している企業のCSRの担当者、森林ボランティア団体に所属し活動を行っている方、森づくり活動に関心のある府民の方を対象とした研修で、自主的な森林保全活動が行える森林ボランティアのリーダーの育成を目的としています。

そのため、研修の内容については、普段の活動ではあまり意識をしない森の健康状態の把握や安全な森林作業技術、森づくり活動の企画・立案・実行の方法など、様々なプログラムが組まれています。

平成24年度の活動の様子

シカ食害などに備え、獣害防止柵の設置を学ぶ

枝打ちや間伐の技術、安全な作業方法を学ぶ

伐採した竹を有効に利用する

平成24年度の研修内容

- 森の健康診断（植生調査・混み具合調査）
- 森の安全作業（人工林の枝打ち、間伐作業）
- 森づくり活動の実践（獣害防止策設置、林内歩道の整備）
- 森づくり活動の企画・立案・実践　など

平成24年度は、全6回の講座を実施し、20名が修了しました。修了者には、当協会よりモデルフォレストリーダーの認定書が交付されます。

平成25年度においても森林保全研修を予定しております（募集は夏頃HP等でお知らせします）。

～平成25年度森林保全研修～

対象者	目　的	定　員	時　期	期　間	研修内容
企業CSR担当者、森林ボランティア団体等	森づくり活動の技術、企画、立案等の知識を身につけたボランティア活動のリーダーを育成	20名	9月～11月の隔週土曜日	全6回	・森の健康診断 ・森の安全作業 ・森づくりの実践 ・企画・立案・実行　等

※研修内容等変更の場合あり

お問い合わせ先
京都府農林水産部モデルフォレスト推進課
TEL：075-414-5005　FAX：075-414-5010　E-mail：modelforest@pref.kyoto.lg.jp

知ってあんしん！ フィールド安全講座

第3回　健康な森林づくりのための下刈り、間伐の注意点

健康な森林をつくるためには、伐採や下刈りなどをこまめに行う必要があります。
作業の際には、刃物などの道具を扱うための予備知識が必要なほか、個人行動を避け、
ほかの作業者と協力しながら進めることが大切です。
そこで、安全に整備作業を進めるための基本ポイントをご紹介します。

下刈りの注意点

スギやヒノキの成長を妨げる雑草木を除去する作業を下刈りといいます。これは苗木が周囲の雑草木よりも高くなるまでの間（約５～10年）、毎年行う必要があります。

森林に入るには①ヘルメット、②滑りにくく底が丈夫な靴、③長袖＆長ズボンが必要です。また、使用する機械によって、④防塵メガネまたは顔面防護具、⑤防振・耐切創手袋、⑥耳栓またはイヤマフを装着します。

作業では主に下刈りガマを使いますが、少し太い雑木にはノコギリを使用しましょう。

［道具を扱うときの注意点］

●下刈りガマ

雑草木を刈り払うのに使います。使用時は隣の人とカマの長さの２倍以上の間隔を空けましょう。大きく振りまわさず、右利きの人の場合は、右足を前に左足は引いた状態で、カマを体の左側へなぎ払うようにします。少し太い雑草木は刃を雑草木に当ててから手前に引くと簡単に刈ることができます。太い雑木は無理にカマで切ろうとせずノゴキリを使いましょう。

●ノコギリ

下草刈りで太い雑木を切るほか、樹木の不要な枝を切り落とす枝打ちにも使います。ノコギリは手前に引く時に切れるようになっているため、引く時にだけ力を入れ、押すときは力を抜きます。木が切断されるときに誤って自分の体に刃が当たり怪我をすることがあるため、木が切断される直前には動きを遅くして力も抜きましょう。

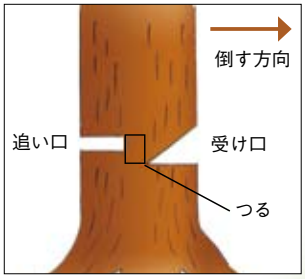
間伐作業の注意点

間伐作業は大変危険を伴う作業です。「立木の伐木作業者」の安全衛生教育を受講した指導者のもとで行いましょう。作業の開始に先立って作業手順や作業者の配置、ホイッスルなどを使った合図の方法などを、作業指導者を中心に十分にミーティングすることが大切です。

森林の現場は斜面が多いので、歩行中・作業中の滑落や転落に十分注意を払います。やむをえず、転落、滑落のおそれがある場所で作業をする時は、ロープ・柵などで防止措置を講じておくことが必要です。場合によっては、安全帯を使用しましょう。

［間伐の手順］

①作業の支障となる周囲の障害物を除去するとともに、大声や笛で周囲の人に木を伐ることを知らせる。
②倒す方向を決めた上で、「受け口」「追い口」の順に木に切れ込みを入れる。倒す方向は一般的に横方向か斜め下方向が良いとされる（上方では倒すのが難しく、下方では倒れた後に勢いよく落ちる可能性があるため）。
③つるの幅が幹の太さの1/10程度となるよう追い口を切り、追い口が浮き始めたら伐採者も退避する。
④伐採した木の枝を払ったり、適当な長さに幹を切る玉切りを行う。
⑤他の木に引っかかって地面まで倒れない「かかり木」となった場合は危険が伴うため、指導者の指示に従って処理する。



下刈りや間伐作業で刈払機やチェーンソーを業務として使用する場合には、業務安全衛生教育を受講する必要があります（個人で使用する場合でも、受講をお勧めします）。

危険を避けるための知識と経験を身につけ、安全で活発な森林整備を進めましょう。

森林（もり）に生かされる人々

森林からの恩恵を受け、森林とともに生活している人たちを訪れ、
その生業や暮らしを紹介します。

用途に応じて竹を切り出し、竹の良さを伝える。

上田（うえだ） 一男（かずお）さん　（竹林づくり名手）

西京区、向日市、長岡京市を中心に竹林業を営む上田一男さん。昭和61年に自動車販売会社を退社後は、祖父の代から続いている家業の竹林業に専念。経験に基づいて得た竹に関する豊富な知識を基に、用途に最も適した竹を切り出しており、平成20年度に国土緑化推進機構の「森の名手・名人（造竹林手）」に選ばれています。

上田さんが仕事をされている乙訓地域は日本有数の竹の産地です。竹林は主に筍を収穫する「ほり薮（農地扱い）」と竹材を切り出す「たて薮（山地扱い）」に分かれます。上田さんはたて薮を中心に、加工用材としての竹を切り出す、いわゆる一次加工に携わっています。

上田さんの切り出す良質の竹は、牡蠣の養殖用の筏をはじめ、鞍馬寺の竹伐り会式など様々な用途にも使われ、時には15m以上の竹を出荷することもあります。また、枝払いなどで出てくる竹枝も1m50cmを越えるものは競馬場の砂をならす道具に利用されています。

上田さんは依頼を受けると、必ず事前に竹の用途を確認します。それは用途によって必要とされる竹の部分、長さも異なるからです。竹を切り出す際は、竹を効率よく搬出・運搬するため切った竹が全体に扇状になるように集積していきます。また、伐採中に竹が裂けることを防ぐため、竹用のチェーンソーではなく、一般に使用されている木材用のチェーンソーを使用します。竹用のチェーンソーは刃が多く、抵抗が大きいため、一気に伐採作業を終えるのが難しいからだそうです。

上／竹枝で砂をならす「笹ハロー」
（提供　JRA京都競馬場）
下／1m 50cmを越える長い竹枝

上田さんによると、竹の切り口の形状について、「一般的に真ん丸なイメージが強いが、実際には、ほとんどが、楕円だ」とのこと。その理由について、「日当たりによって南側は竹の繊維質が厚くなり、北側は繊維質が細くなるから」と推測されているそうです。

放置竹林の問題について「竹の用途を増やして、竹林にもっと人の手を入れることが大切だ」と考える上田さん。「放置された竹林にも、人の手が入ることで竹の成長サイクルが作られていき、健全な竹林に育つ」と語る姿がとても印象的でした。

右／まっすぐに高く伸びた竹林
下／チェーンソーで竹を切る上田さん

《レポートを終えて》

竹の成長サイクルの速さは他の素材にはない大きな利点だと思います。健全な竹林のサイクルを確立するためにも、竹の用途を増やす取組を進めていく必要を感じました。

（取材：近藤吉祐）

活動報告

学校緑化の取組み（ローソン緑の募金）

12月11日に京丹後市立島津小学校で、3月12日に精華町立山田荘小学校で、それぞれ児童参加のもと、「ローソン緑の募金」を活用した苗木の植樹を行いました。

島津小学校では、ビオトープの周りにサツキやユズリハ、ナンキンハゼを、山田荘小学校では、運動場横にハナミズキを植樹しました。

（この事業は全国のローソンに設置されている「緑の募金箱」に集まった募金を基に行われています。）

「森林・林業京都会議」「MF運動推進大会」の開催

3月5日、京都市内で「第1回森林・林業京都会議」、午後からは「モデルフォレスト運動推進大会」が開催されました。（詳細はP1、P2をご覧ください。）

緑の募金キャンペーン〈春〉実施中

期間：平成25年3月1日～5月31日

府民の皆様にご協力いただいている緑の募金は、森林ボランテイア等、府民参加の森林づくり、地域緑化や学校の緑づくり、緑化行事や緑化コンクールの開催、緑の少年団活動支援ほか、東日本大震災の復興にも活用されています。

24年の春と秋の募金実績

16,514,701円

ご協力ありがとうございました。

「京都大作戦の森づくり」記念植樹

3月3日、京都府立山城運動公園（太陽ヶ丘）において「京都大作戦記念植樹」を行いました。

当日は、森林ボランティア「フォレスターうじ」、京都府立大「森なかま」、京都府公園公社、山城モデルフォレスト推進協議会、当協会など約40人が、樹木医の松井裕之氏の指導のもと、園内にヤマザクラ1本とモミジ3本を植樹しました。

この植樹は、夏の野外コンサート『京都大作戦』でいただいた緑の募金を基に2008年から毎年行われているもので、今年は夏の大雨による土砂災害により、天ヶ瀬森林公園が閉鎖中のため、太陽ヶ丘に場所を変えての植樹となりました。

「チーム以森伝心」メンバー 大募集!!

当協会では、レポーター（チーム以森伝心のメンバー）を募集しています。

活動内容は、月1回のメンバーミーティング（出席できるときのみで可）と、ミーティングで決まった取材先へのレポート（本誌に掲載）です。

〈お申込・お問い合わせ先〉

下記（当協会）まで、お電話もしくはメールにてご連絡ください。

『以森伝心』は、タイムリーな情報発信を行うため、来年度より毎月発行に変更します。引き続き、よろしくお願いします。

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会　入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054　京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2　府庁西別館内
TEL & FAX　075-414-1270　　E-mail　kyomori@kyoto-modelforest.jp
URL　http://www.kyoto-modelforest.jp

2013年3月発行
編集・デザイン：自然堂（じねんどう）株式会社

この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。